

時を忘れ砂と戯れるように、
童心で歌を楽しむ

創設当初から、島田児童合唱団(旧金谷少年少女合唱団)「カナリヤ」を支えてきた川崎公代さん。その功績が称えられ、今年度の島田市芸術文化奨励賞を受賞されました。川崎さんは音楽を通して、子どもたちの夢と可能性を広げています。

【五感を使って遊ぶ感覚】

川崎さんは、幼い頃から父のオルガンと母の美しい歌声をよく耳にし、音楽の魅力に引かれ、小学生でピアノを始めました。そんなとき、大人のコーラスに付いていったことがきっかけで、音楽の中でも特に「歌」に対する思いが高まったそうです。

「子どもながらに、人の声が重なり合うハーモニーに心打たれ、いつしか大人に交じって歌うように。もう楽しくて夢中で、歌っているときは、時が経つことさえ忘

れるほどでした。今思えば、無邪気に砂遊びをしているかのように、五感を使って遊ぶ感覚だったのでしょ」

現在、カナリヤには、幼稚園児から高校生までの19人が

【教え子からの手紙】

そんな子どもたちも、受験勉強などで、なかなか思うように練習に來られなくなりま

目指した女の子からのもの。そこには、10年間の合唱団の

思い出と川崎さんへの感謝の気持ちがつづられ、最後は「貴重な経験と先生から教わった大好きな歌を、私が進む道に生かしていきたいです」と締めくくられていました。「音楽が人の心にもたらす効果は絶大。ましてや、夢中になつて歌っているときほど、幸せなことはないんです。この手紙は、歌を教えてきた私の一生の宝物です」と優しく目を細めます。



島田児童合唱団「カナリヤ」指導者
川崎公代さん(金谷栄町)

在籍。「みんなく」で毎週行う練習では、「好きなことに夢中になることの楽しさを伝えたい」という川崎さんの思いに引き寄せられ、子どもたちは無心に歌っています。

とても辛いですね」と悲しそうに話しながら、川崎さんは一通の手紙を見せてくれました。手紙は、大学受験を控えながらも合唱団のロシア演奏旅行に参加した、福祉の道を

【世界のどこで歌っても】

「小さなまちで歌っている、小さな音楽。でも、世界のどこで歌っても変わらないのも音楽です。将来、この子たちの前に壁が立ちほはだかつて、ここで見せる笑顔で歌いながら、突き進んでほしいものです」と目を輝かせます。

「私は、この子たちと一緒に、好きな歌を歌っているだけです。私たちは、歌を通して、人の気持ちや情景を皆さんに伝えていくんです」と笑顔で話してくれました。



金谷公民館で練習に
励むカナリヤの団員

Shimadian File #44

